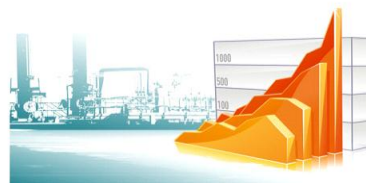


ぎふ経済レポート



平成27年5月分
岐阜県商工労働部

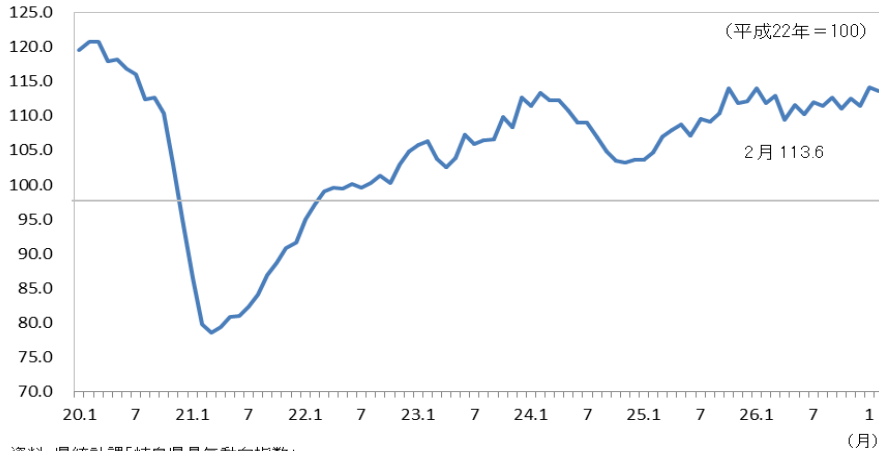
※企業等へのヒアリングは5月28日～30日を中心に実施し、6月8日に作成。

景気動向

- 2月の景気動向指数(一致指数)は、113.6と前月より0.5ポイント下降した。
- 4月の県内中小企業の景況感は、マイナス20と前月より8ポイント上昇した。

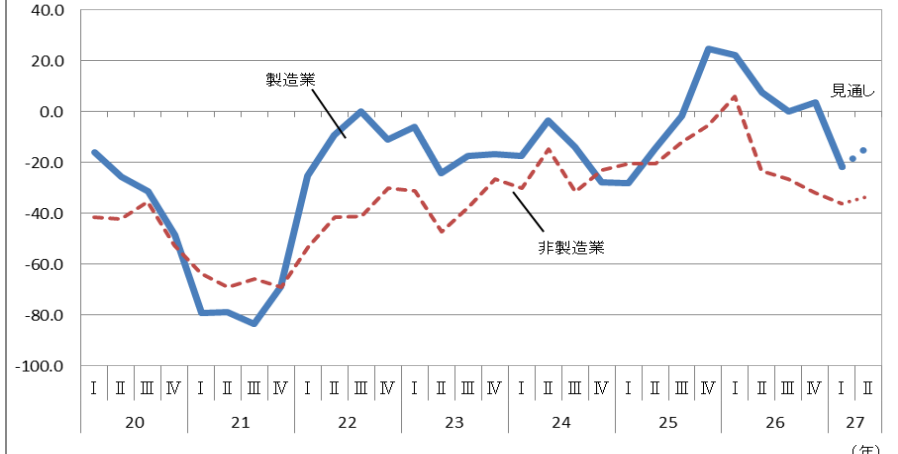
- 平成27年1-3月期の売上高は、製造業、非製造業ともに減少したものの、翌期は、製造業、非製造業ともに、売上高、利益について改善する見通し。

岐阜県景気動向指数(CI)の推移



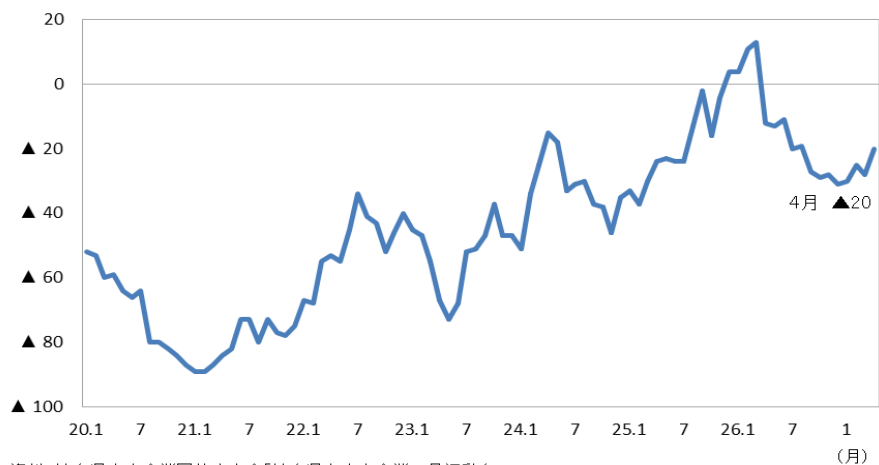
資料: 県統計課「岐阜県景気動向指数」

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



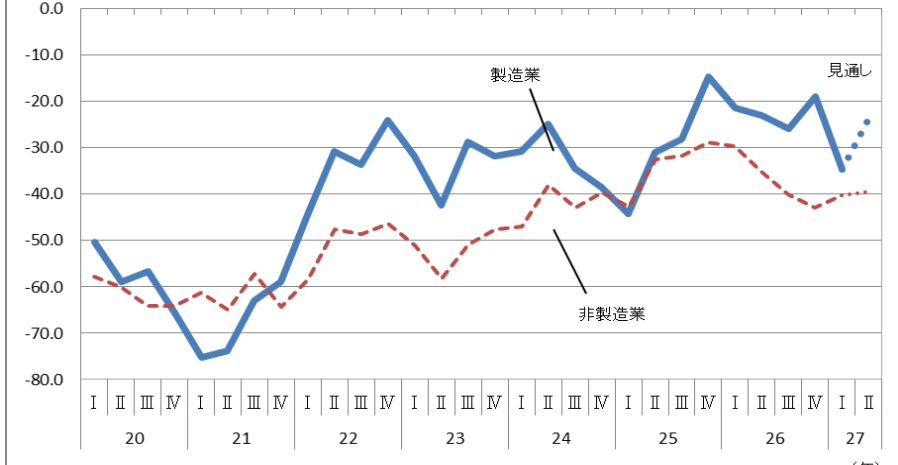
資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



資料: 岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」

県内企業の採算DI(増加-減少)の推移



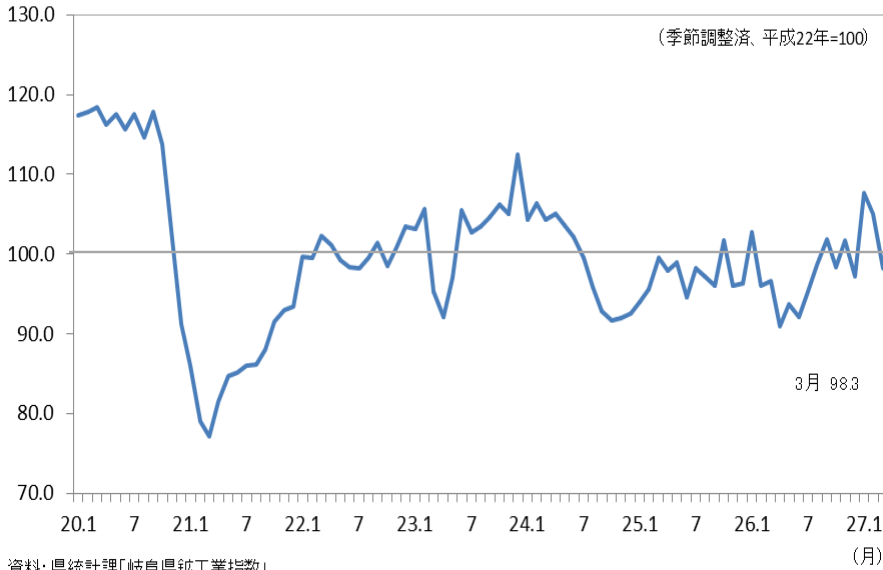
資料: (公財)岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

製造業

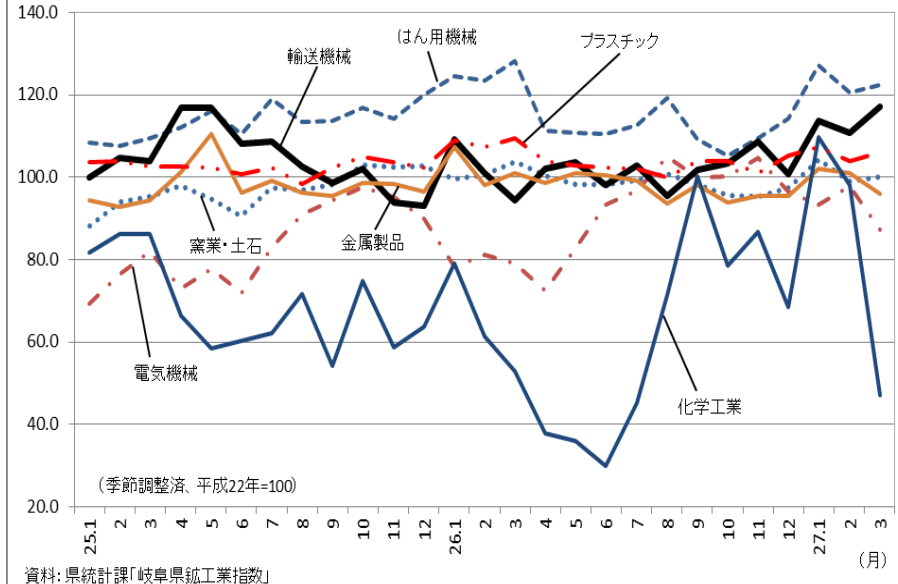
○3月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、98.3と前月比マイナス6.4%となり、2ヶ月連続で低下した。

○3月の主な産業の鉱工業生産指数(季節調整済)は、金属製品、電気機械、化学工業を除く産業で前月より上昇した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数



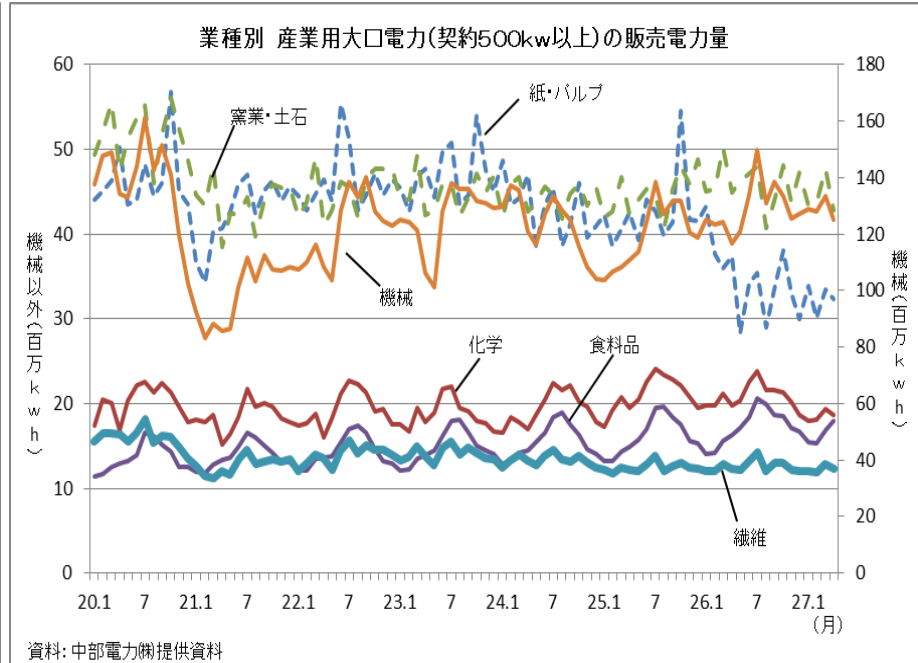
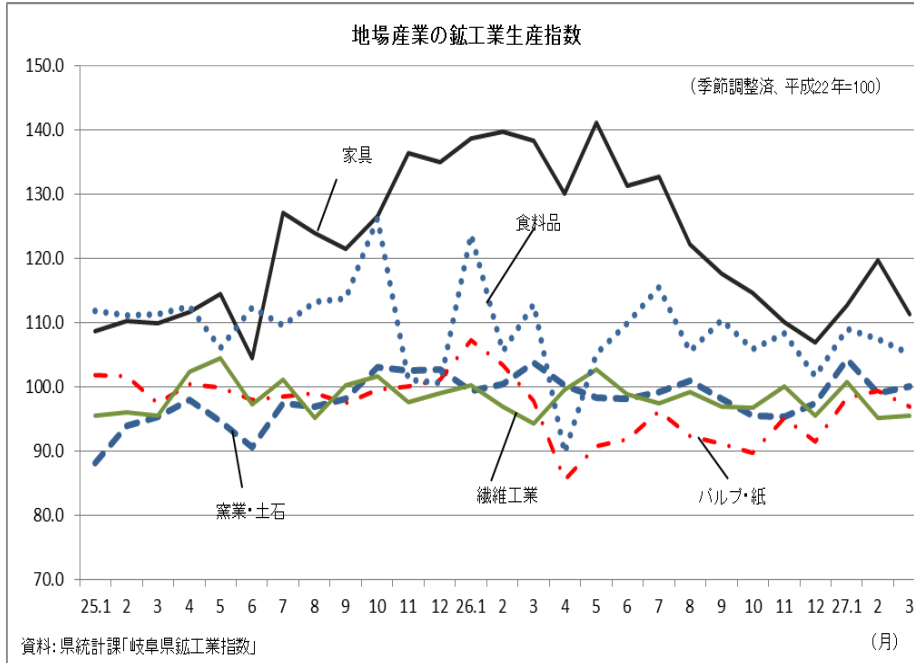
現場の動き

- ◆生産、販売は微増。前年同時期のエコカー減税の駆け込みと比較して、受注は若干少ない程度だが、燃料費が下がった分業況が良くなった。
- ◆カーエアコン用のアルミ部品の受注が順調であり、来月はさらに増産する予定。(以上、輸送用機械)
- ◆売上・受注とも今後2、3ヶ月は対前年比で1割程度増加する見通しである。(非鉄金属)
- ◆9月まで受注を確保しており、順調である。
- ◆ほぼフル生産体制が続いており、一部夜勤も始めている。(以上、生産用機械)
- ◆売上・受注とも、7~8%程度増加しているが、GWの影響で今月は若干減少した。(はん用機械)
- ◆売上・受注とも、前年同月比で約15%程度伸びている。(金属製品)

製造業-2

○3月の地場産業(刃物を除く)の生産指数は、窯業・土石、繊維工業が前月より上昇したものの、パルプ・紙、家具、食料品は低下した。

○4月の工場向け電力販売量は、紙・パルプが15ヶ月連続で、化学が10ヶ月連続で、窯業・土石が6ヶ月連続で前年を下回った。

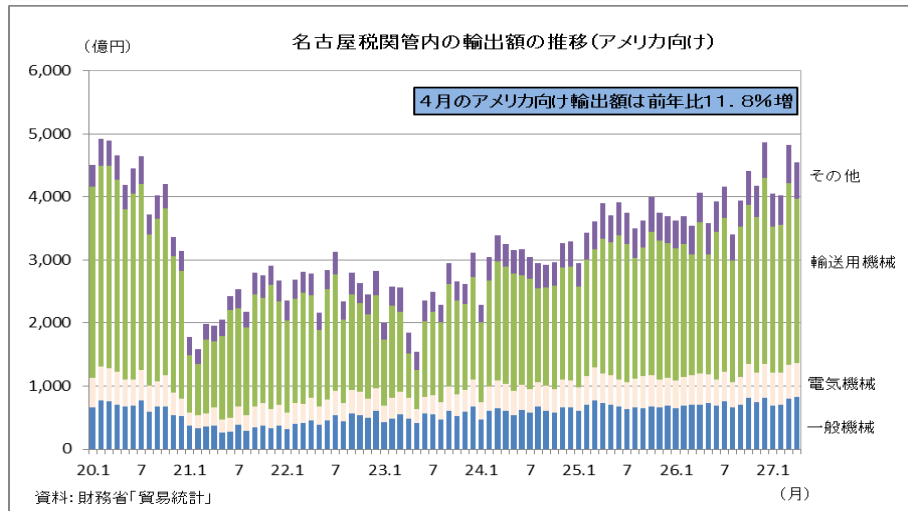
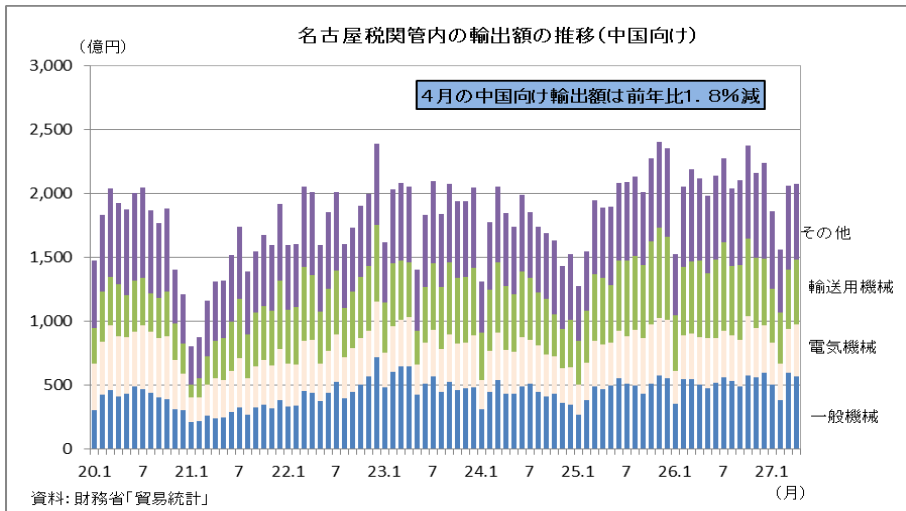
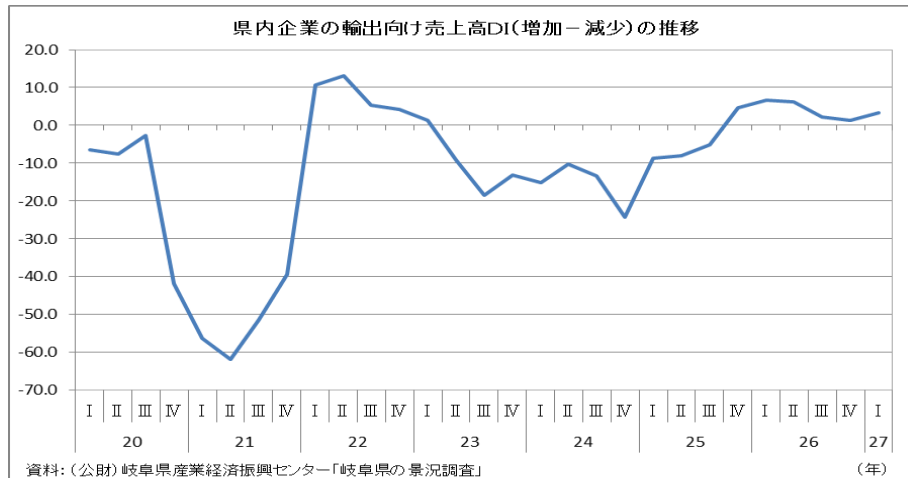
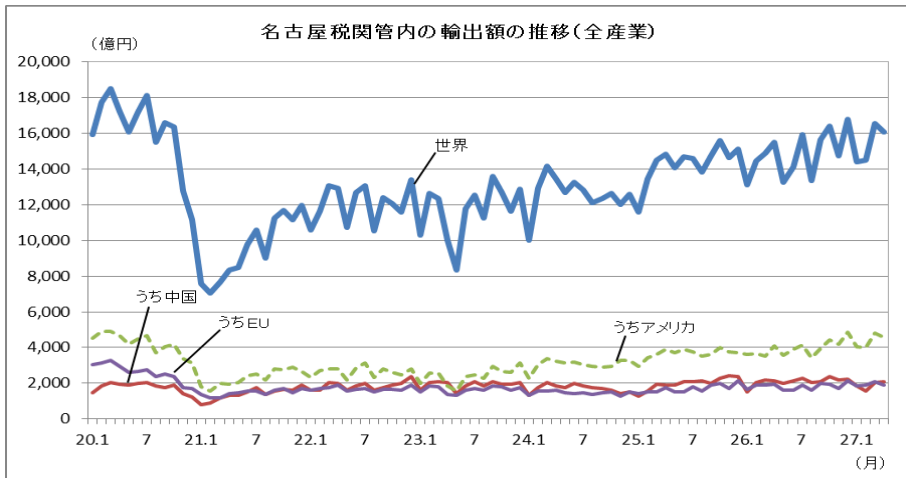


現場の動き

- ◆売上高は順調に増加しており、受注・出荷ともに堅調。(食料品)
- ◆3月の需要期に売上が振るわなかったことに加え、4月、5月はもっと悪かった。(木工)
- ◆円安による原料コストの高止まりが続いている。(アパレル)
- ◆全体的には、底堅い需要に支えられている感があり、若干ではあるが回復の兆し。(紙)
- ◆売上・利益について、ここ数か月間は前年同月比微増で推移。(刃物)

輸 出(名古屋税関管内)

- 4月の輸出額は1兆6,060億円で、前年同月比3.7%増と8ヶ月連続で前年を上回った。
- うち中国向けは、一般機械と電気機械を除く産業で減少し、同1.8%減と3ヶ月連続で前年を下回った。
- うちアメリカ向けは、すべての産業で増加し、同11.8%増と8ヶ月連続で前年を上回った。
- 県内企業の輸出向け売上高は前期に比べ僅かに増加しており、引き続き好調を維持している。



為替・原油価格の動向による影響について

- ◆円安で安定していることから、差益、差損のどちらもほとんど発生していない状況。(輸送用機械)
- ◆円安傾向が続くことでアルミ等の原材料費が高騰する可能性があり、為替動向を注視している。(非鉄金属)
- ◆円安や原油安の影響は感じられない。(はん用機械)
- ◆原油価格の影響で材料費がやっと下がってきたが、反面、販売単価引き下げ要請があった。(プラスチック)
- ◆円安の影響により、北米向けの車種の生産量が増加しており、引き続き好調な状況は続いている。(生産用機械)
- ◆原油価格の下落傾向に伴い、LPガス燃料費が毎月値下がり(前年比で1/2程度)している。(金属製品)
- ◆東南アジアで製作しているPB商品について、春から値上げした。(スポーツ用品)
- ◆円安の影響で生活必需品が値上がりし、衣料品が買い控えられている。(アパレル)
- ◆円安により原材料価格が高値で推移しており、原価に占める割合が高まっている。(紙)
- ◆瓶やラベル等の資材について、値上げ依頼が増加している。(食料品)
- ◆原油価格の下落が円安による輸入価格上昇分を上回っており、経済全体が上向くことで、本来の円安メリットが発揮され、最終的に消費回復につながることを期待する。(コンビニ)
- ◆原油が値上がり傾向であり、コスト増として運送費の値上げを実施できるか不安。(運輸)
- ◆大半の企業が120円/ドルの想定で計画を立てているが、さらに円安が進行すると影響が出てくる恐れがある。
- ◆全体的には円安の恩恵を受けて、良い方向に向かっている。(以上、金融)

アベノミクスの効果・影響について

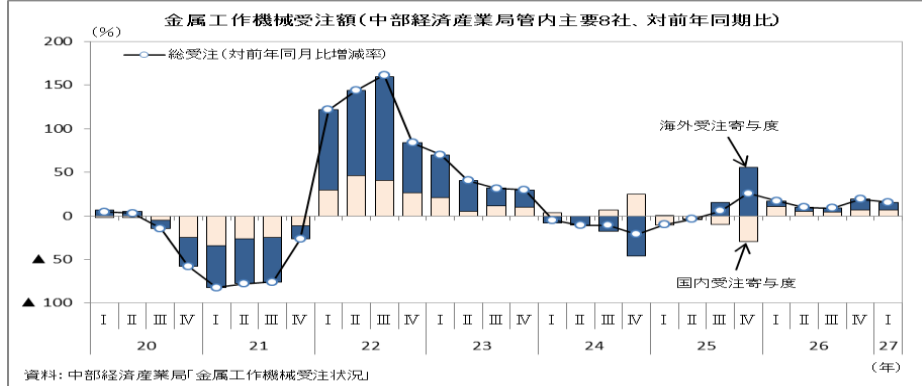
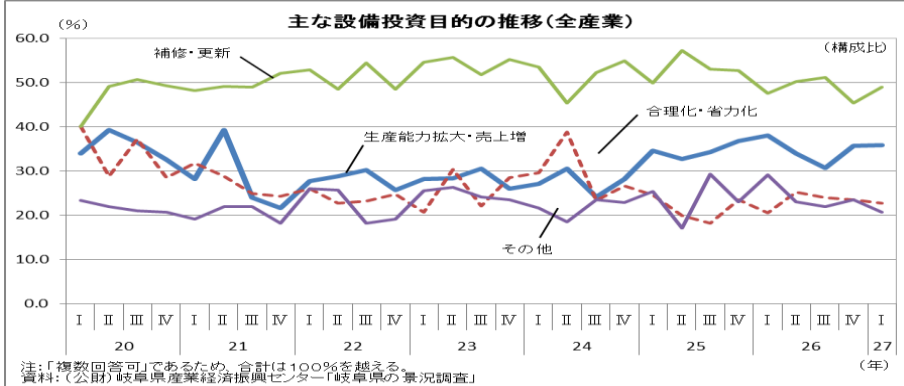
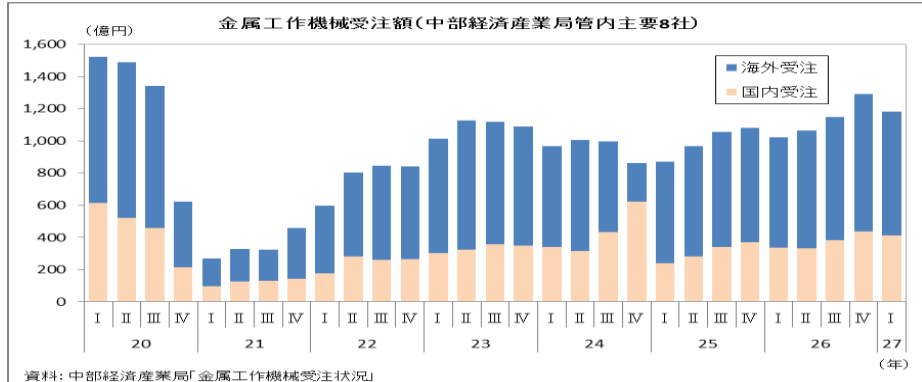
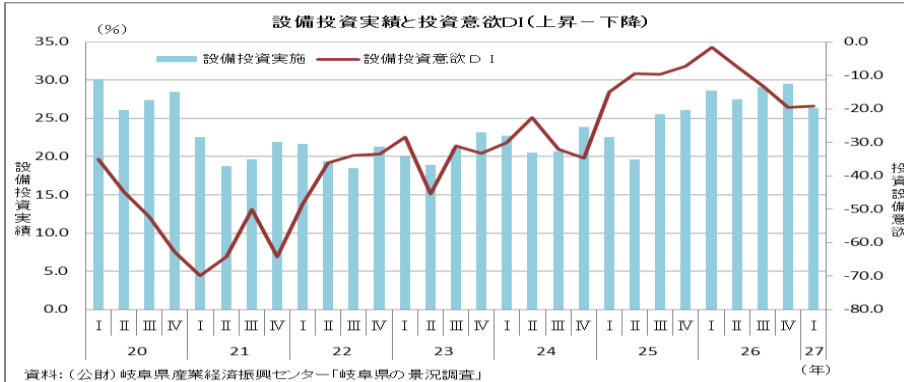
- ◆トヨタ自動車は2015年上期の部品調達価格の値下げ要請を見送ったことなどから、少しずつではあるが、効果が感じられるようになった。
- ◆大手企業や都市部の企業までは効果が出ていると思われるが、地方の中小企業まで恩恵が得られるのか疑問。
- ◆補助金や税制優遇などを有効に活用している。(以上、輸送用機械)
- ◆今年度、法人税引き下げにより影響が出てくるとされる。(プラスチック)
- ◆輸入木材の値上がりが続いている。一部は販売価格に転嫁しているが、当社負担が増加している。(木工)
- ◆アベノミクスのポジティブな面が反映され、景気の緩やかな回復、消費者の前向きな購買行動が数字にも現れてきている。(コンビニ)
- ◆外国人観光客は多く、アベノミクス効果(円安等)があると思われる。(高山商店街)
- ◆円安の影響で自動車産業等、プラスに働いている業種はある。(金融)
- ◆アベノミクス効果は感じられない。(アクティブG、家電、商店街、住宅関連)

昨年4月からの消費税増税の影響について

- ◆3%→5%の引上げ時と比較して、自動車業界だけでなく、各業界ともに駆け込み消費は少ないように思われる。
- ◆昨年5月以降の生産量の落ち込みもなく、今後も影響はないと想定している。(以上、輸送用機械)
- ◆消費税増税や生活必需品の値上げにより衣料消費全体の減少が続いている。(アパレル)
- ◆消費税率の引き上げによる影響は、一巡して落ち着いた。世間がインフレを許容してきた感がある。(家電)
- ◆高額商材の売上は回復しているが、衣料・雑貨はいまだ苦戦傾向にある。(大型小売店)
- ◆日商前年比、平均客数前年比からも駆け込み消費の反動減によるマイナスが一巡し、回復基調にあることが読み取れる。(コンビニ)
- ◆消費税率10%への引き上げも控えており、先行きは不透明である。(スポーツ用品)
- ◆再増税について、影響が大きいと思われるが受注動向が読めない状況。(住宅関連)
- ◆消費税率10%への引き上げにより、消費の冷え込みが懸念される(金融)。

設備投資

- 平成27年1-3月期の設備投資実績は3期ぶりに減少した。目的別では、「生産能力拡大・売上増」は前月と同水準で推移し、「補修・更新」が増加した。
- 設備投資意欲は4期ぶりに増加した。



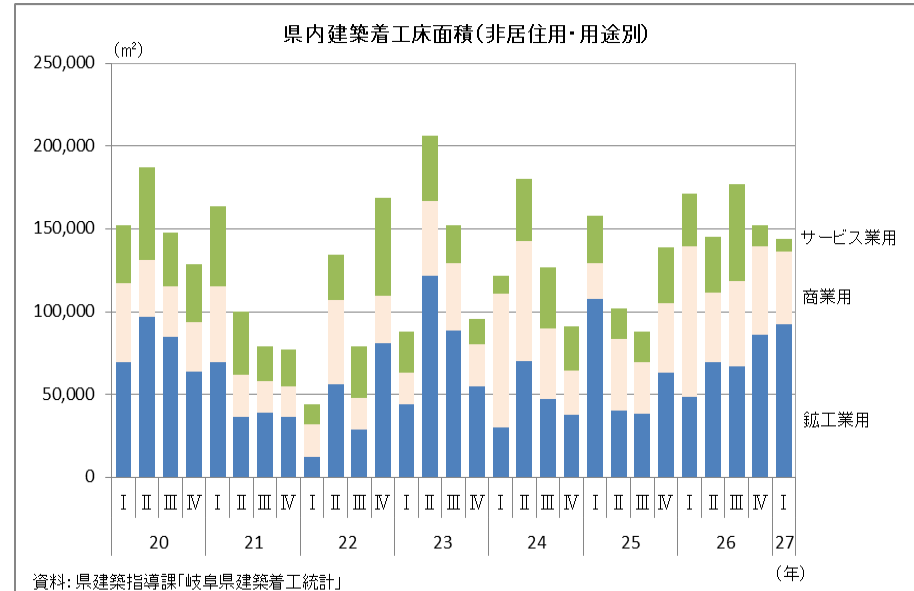
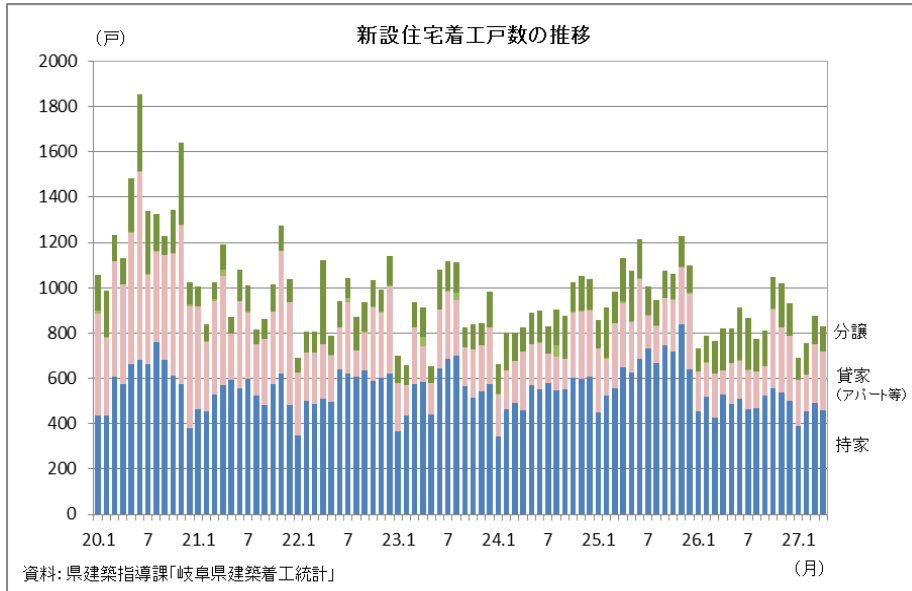
現場の動き

- ◆来年度末を目途に航空機関連部品製造工場の増設を計画。
- ◆来年7月にエンジンオイル供給用部品の製造ラインを増設予定。(以上、輸送用機械)
- ◆秋に増産・合理化のため1億2千万円程度の設備投資を計画。(金属製品)
- ◆近畿地方、愛知県での新規出店を予定。(スポーツ用品)
- ◆航空関連産業、自動車産業、食料品製造業が増産のために設備投資を行ってきている。(金融)

住宅・建築投資

○4月の住宅着工戸数は、持家、分譲が減少したものの、貸家が大きく増加したことにより、全体で前年同月比1.2%増と2ヶ月連続で前年を上回った。

○平成27年1-3月期の建築着工床面積は、鉱工業用が増加したものの、商業用、サービス業用が減少し、全体では前年同期比16.0%減と6期ぶりに前年を下回った。

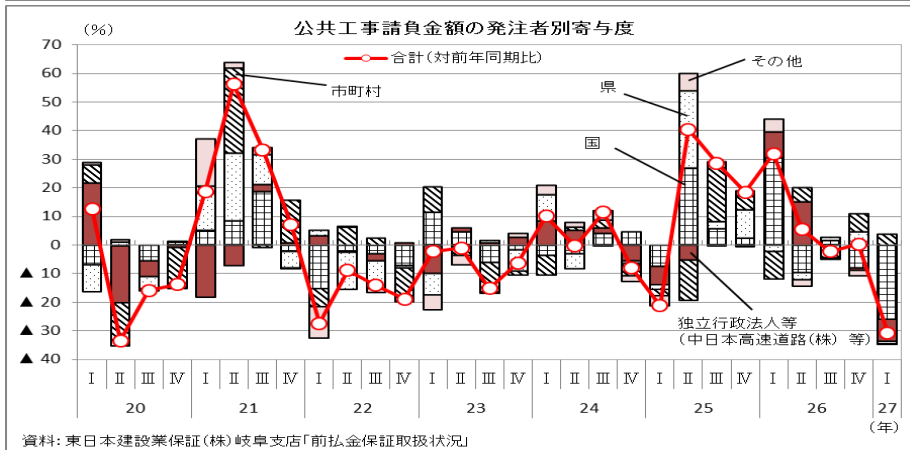
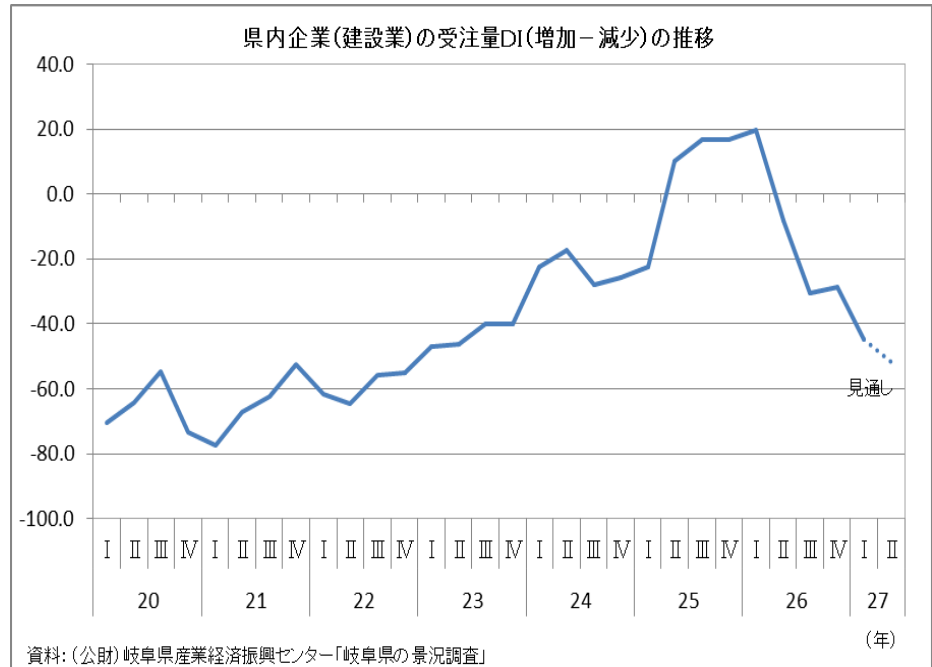
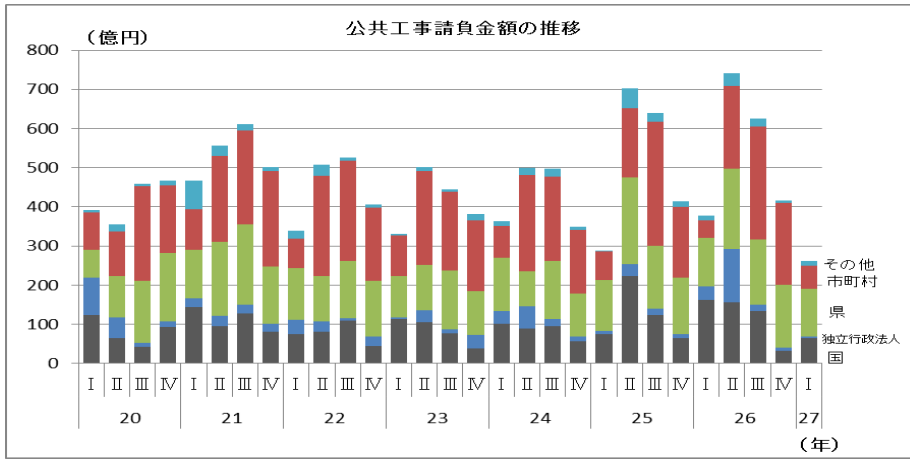


現場の動き

- ◆受注件数は前月と同水準。連休を含め5月の展示場の集客状況はまずまずだった。(住宅関連)
- ◆プレカットの受注は、4月は良好であったが、GW明けから減少している。(製材)
- ◆A材(製材用材)は、スギは引き合いが弱めとなり、ヒノキは特に弱い状況が続いている。
- ◆B材(集成材)も製品需要は旺盛であるが、製品市況については芳しくない状況。
- ◆C・D材(チップ・燃料用材)については、バイオマス発電施設稼働に伴う原木需要増の影響等から需要が非常に旺盛な状況が続いている。(以上、森林組合連合会)

公共工事

○平成26年度内に県内で実施された公共工事請負額は2,044億円で、前年度比4.2%減少した。
 ○平成27年1-3月期の公共工事請負金額は、前年同期比30.7%減と2期ぶりに減少に転じた。市町村を除くすべての発注が減少した。



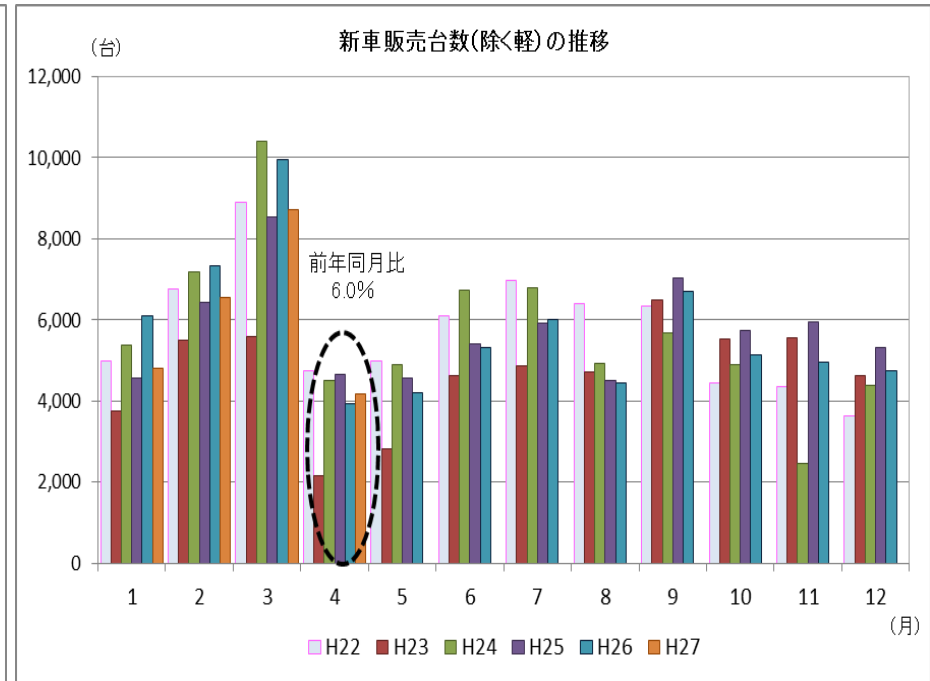
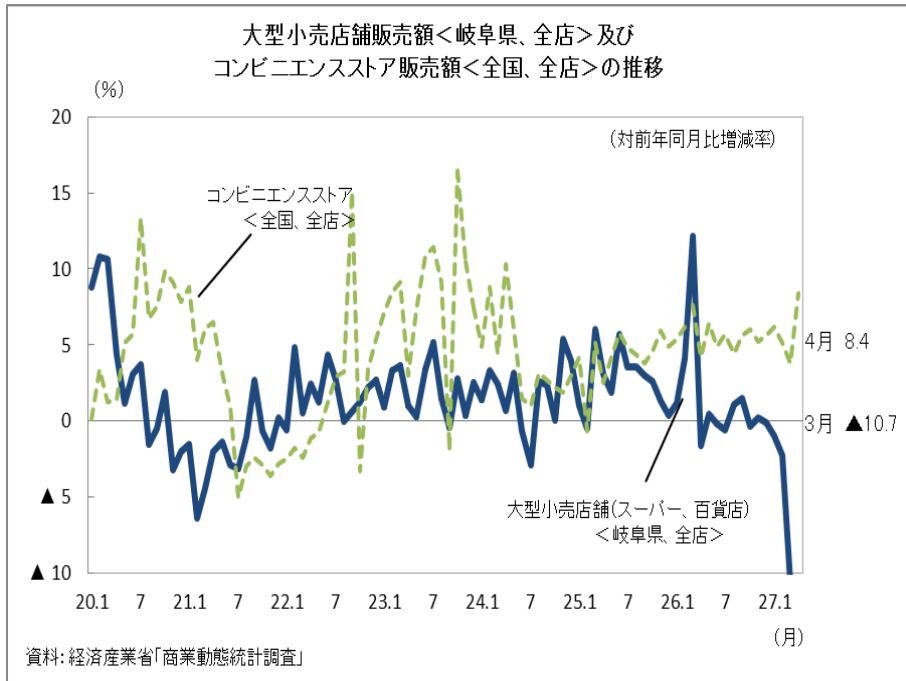
現場の動き

◆公共工事は時期的に少なく、また、民間工事においても工事規模の大小問わず、手持ち工事量としては少ないと感じている。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

○3月の大型小売店販売額は、前年同月比10.7%減と4ヶ月連続で前年を下回った。

○4月の自動車販売(除く軽)は、前年同月比6.0%増と9ヶ月ぶりに前年を上回った。



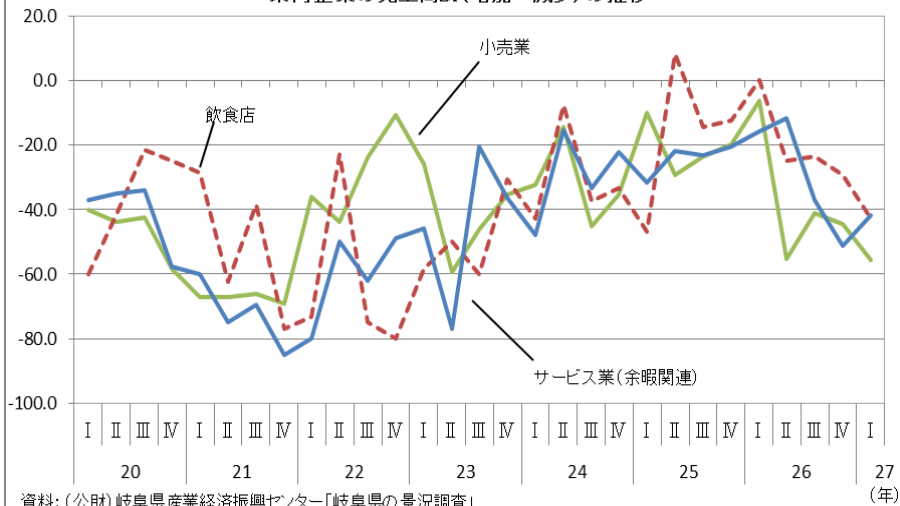
現場の動き

- ◆前年同月比客数102%、売上104%と、駆け込み消費の反動減によるマイナスが一巡した感がある。
- ◆食料品、宝飾品、呉服、美術品は売れ行きが好調であった。(以上、大手小売店)
- ◆売上は、前年同月比105%。客数は前年と同水準となった。
- ◆フィットネス商品の売れ行きが好調であった。(以上、家電)
- ◆5月は連休が多く、割引券を発行したこともあり、売上、客数ともに前年同月比プラスとなった。(スポーツ用品)

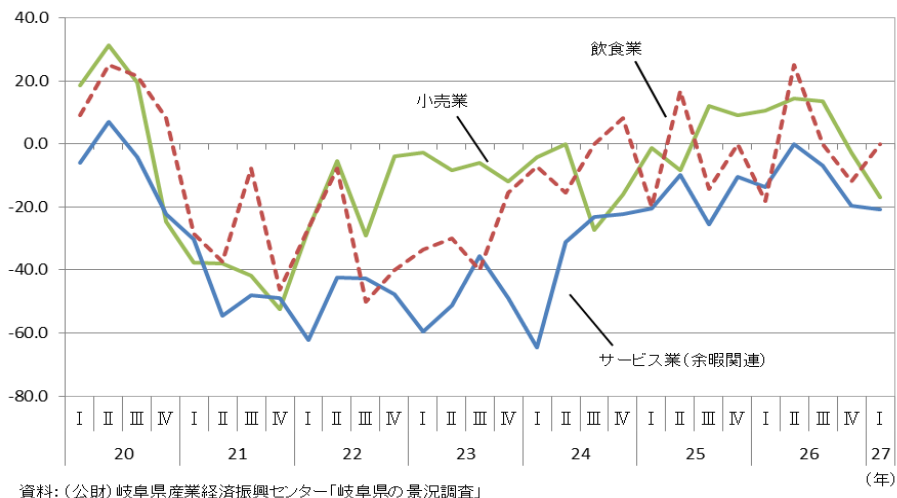
個人消費(流通・小売)－2

○平成27年1－3月期の飲食業について、売上高は減少したが、販売価格は増加した。サービス業については、売上高は増加したが販売価格は減少した。小売業については、売上高、販売価格ともに減少した。

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇-下降)の推移



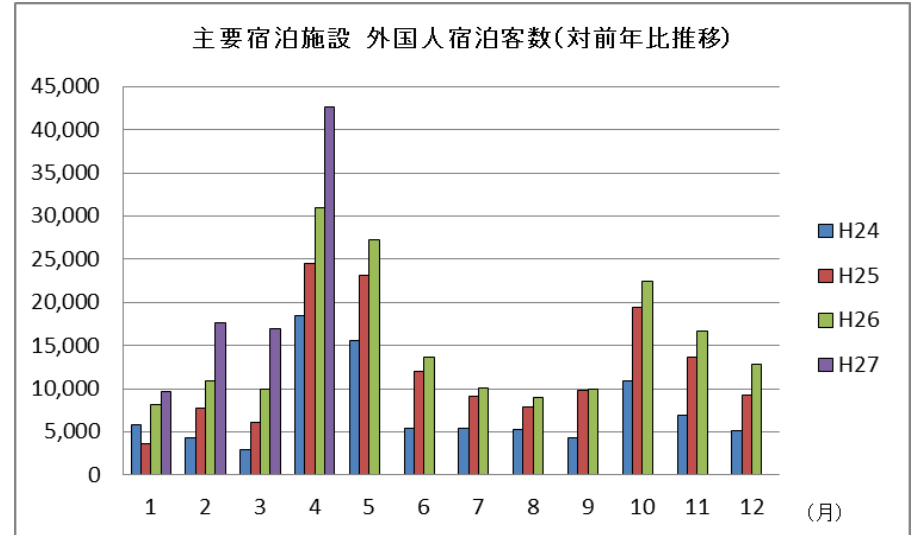
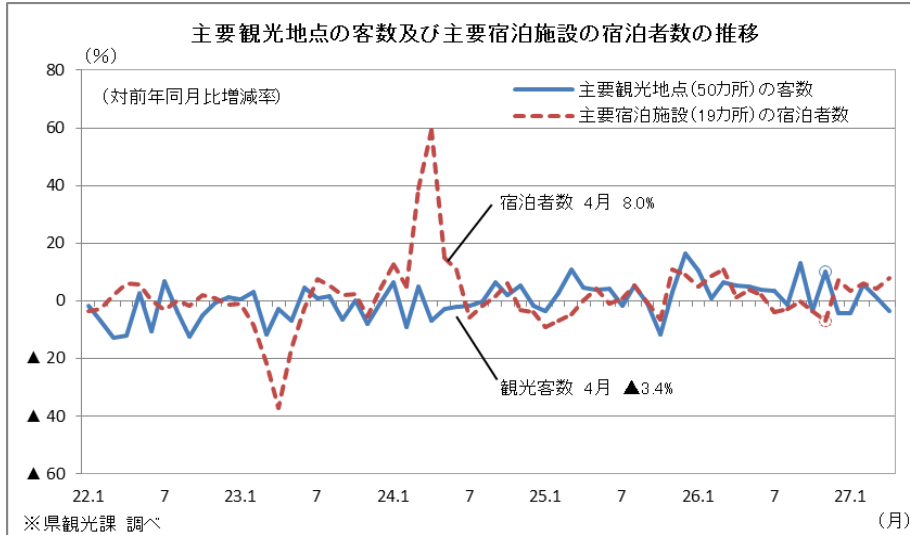
現場の動き

- ◆大型商業施設の2割引き売り出しがあり、その期間は、人手が多かった。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比85%。飲食店が同100%、メガネ店が同130%。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆5月はお祭りがあり、その期間は、人手が多かった
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比100%。(以上、大垣市商店街)
- ◆外国人観光客、中高生の修学旅行団体が多かった。
- ◆売上は、土産・雑貨店が前年同月比105%、衣料品店が同100%。(以上、高山市商店街)
- ◆売上は、酒類販売が前年同月比100%、子ども服も同95%。(多治見市商店街)
- ◆物販は連動したフェアの開催と新店舗の影響により部門全体としては好調に推移。
- ◆館全体売上としては前年同月比100%を上回った。(以上、アクティブG)
- ◆1日あたり1店舗平均の客数は前年同月比102.6%、売上は同109.7%となった。(コンビニ)

観光

○主要観光地における4月の観光客数は、前年同月比3.4%減と3ヶ月ぶりに前年を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は同8.0%増と5ヶ月連続で前年を上回った。

○主要宿泊施設における4月の外国人宿泊客数は、前年同月比37.9%増と27ヶ月連続で前年を上回った。

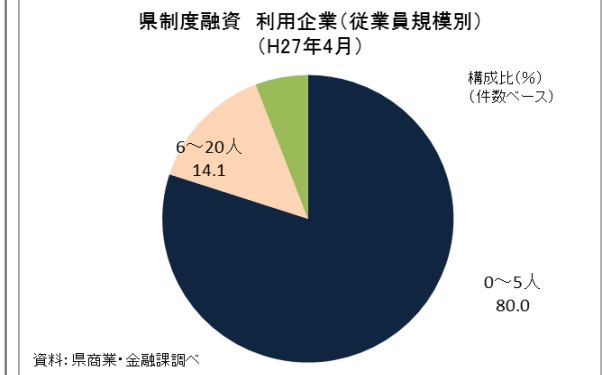
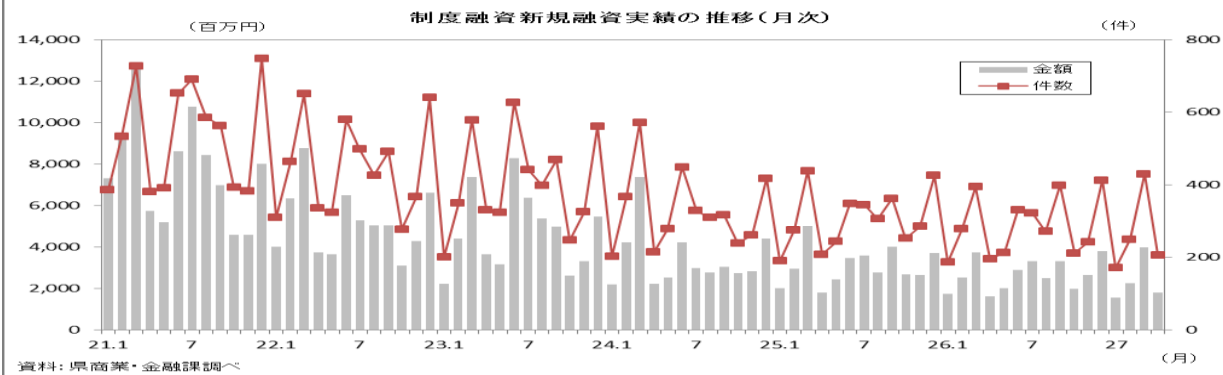
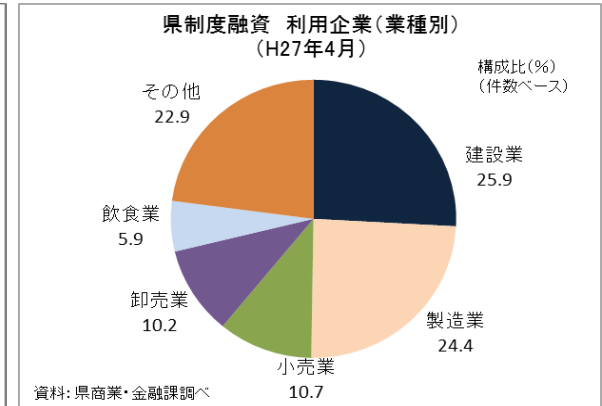
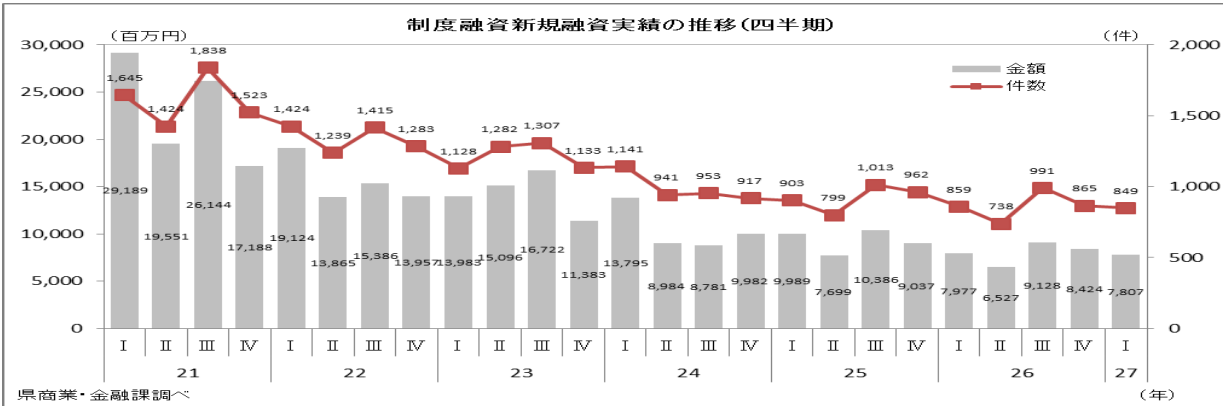


現場の動き

- ◆インバウンドの増加等により、宿泊客数は、8割以上の施設で前年を上回っており、好調を維持している。(宿泊施設の総括)
- ◆ふるさと旅行券については、補助があるため高単価の宿泊プランを利用する客が多い。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆企業の団体連泊が有り。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆週末の予約、実績は微増であるが、好転の動きは出てきている。インバウンドは、売上、入込みともに、昨年を上回っている。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆インターネット予約客と外国人旅行客の客単価が上がってきている。ふるさと旅行券の効果もあり、販売好調。
- ◆北陸新幹線の影響はまだ出でおらず、これからといった印象。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドについて、円安により、特にアジア地区のツアーが好調。4月中旬～6月までは、「立山黒部アルペンルート」関係の集客が多い。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は、平成21年秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しが感じられる。
- 4月の実績は金額が前年同月比11.3%増、件数が同5.1%増と2ヶ月連続で増加した。
- 建設業・製造業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が8割を占める。

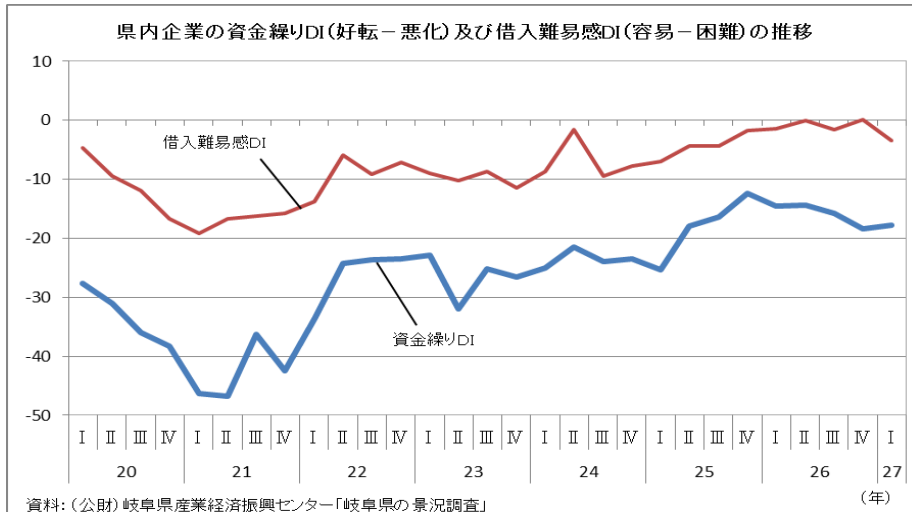
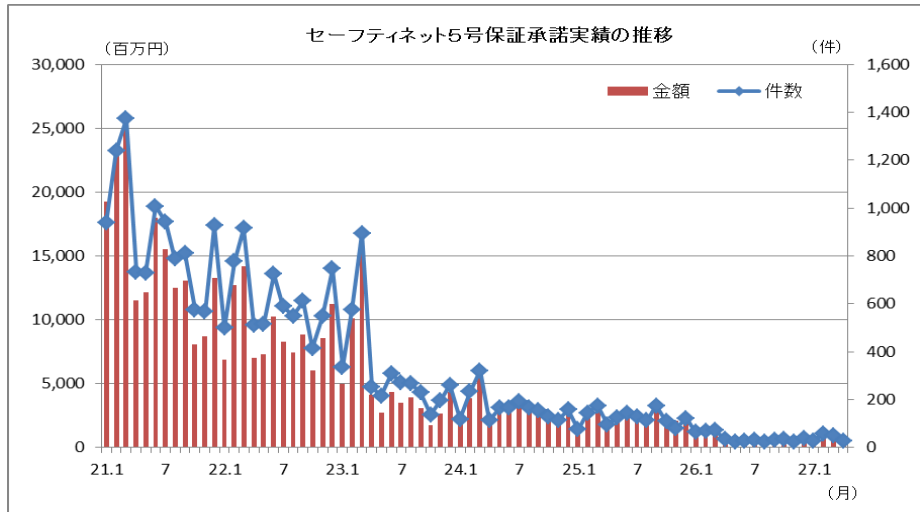
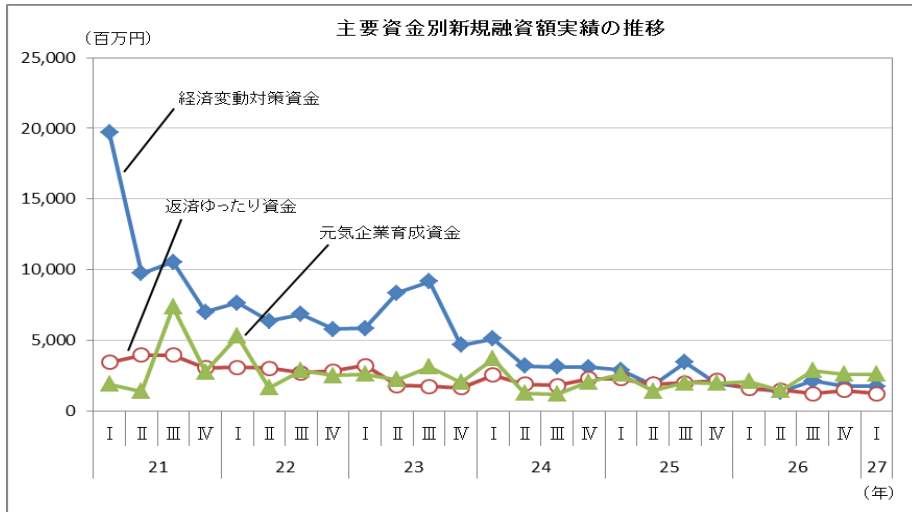


現場の動き

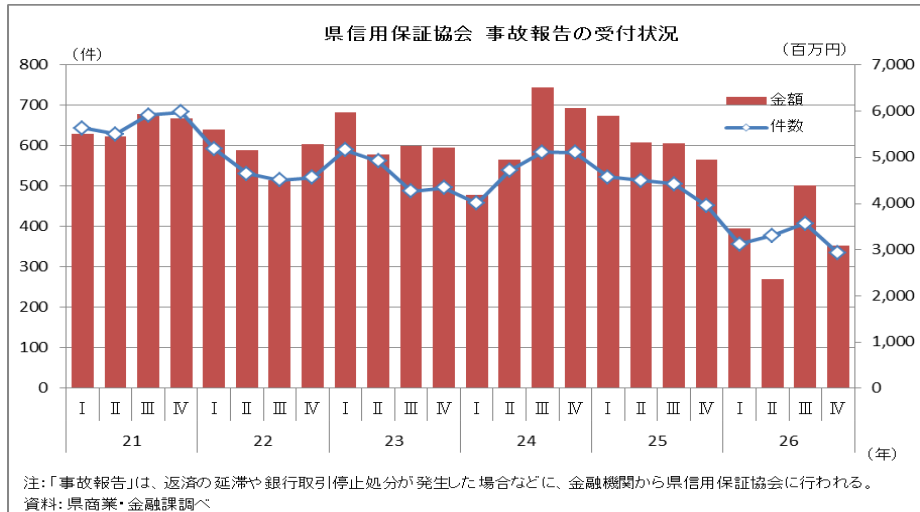
- ◆受注や消費マインドが上向き、資金需要の回復が見られる。
- ◆融資額は全体的に減少。
- ◆設備投資目的の融資は伸びている。(以上、金融)

資金繰りー2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資額実績、業況の悪化している業種に属する中小企業者を支援するための措置である「セーフティネット保証5号」の承諾実績は、平成21年秋以降減少傾向にある。
- 資金繰りについては、回復基調に一服感がある中で、借入難易度が2期ぶりに減少した。



資料: (公財) 岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

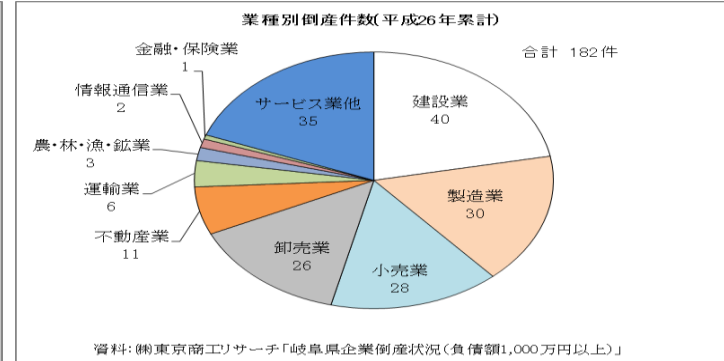
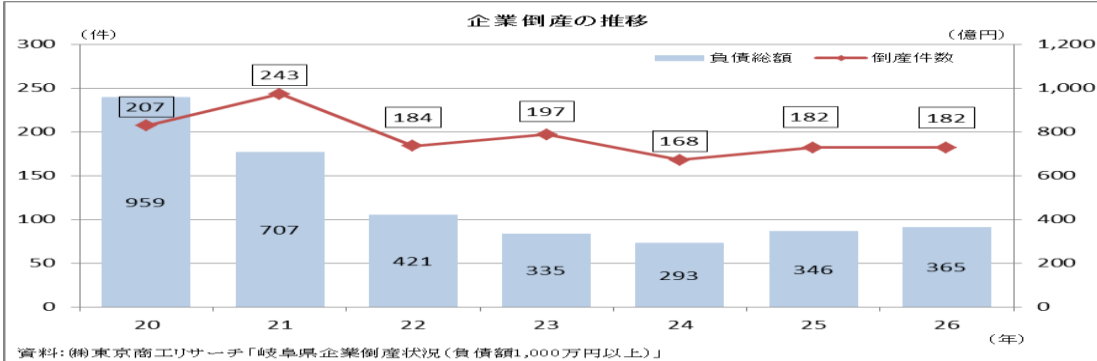
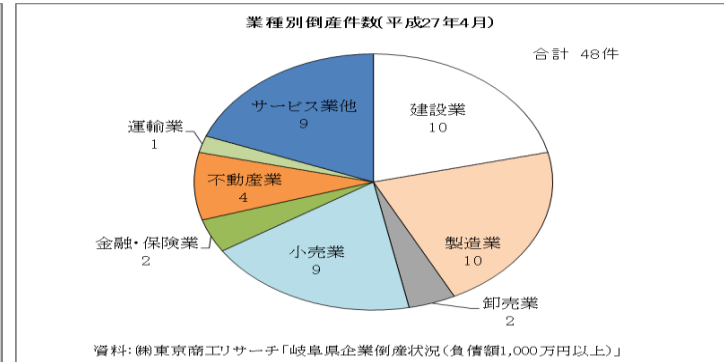
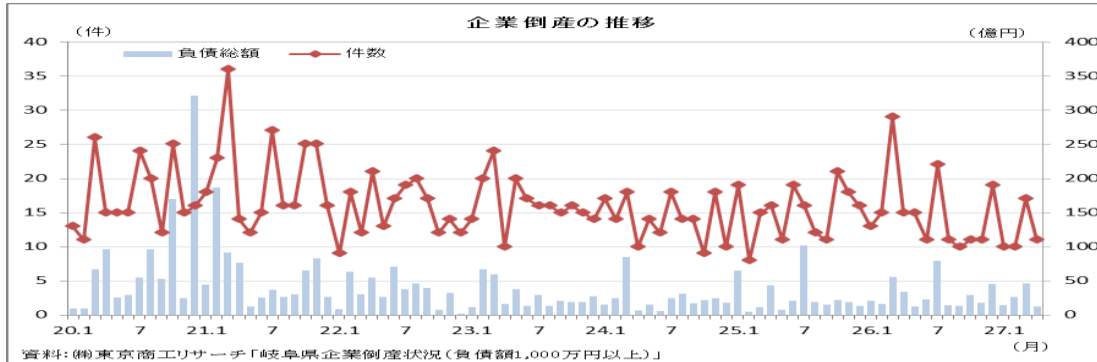


注: 「事故報告」は、返済の延滞や銀行取引停止処分が発生した場合などに、金融機関から県信用保証協会に行われる。
資料: 県商業・金融課調べ

倒産

○4月の倒産件数は前年同月比26.7%減の11件、
負債総額は同64.6%減の12億1,600万円となった。

○業種別では、建設業と製造業で
倒産件数の4割を占めている。



専門機関の分析(東京商工リサーチ)

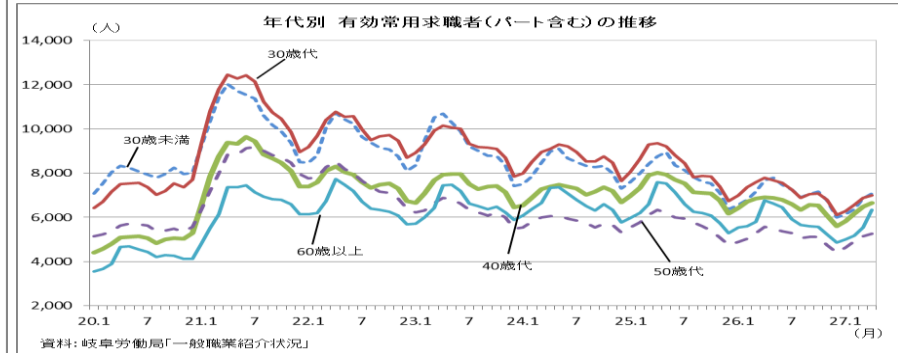
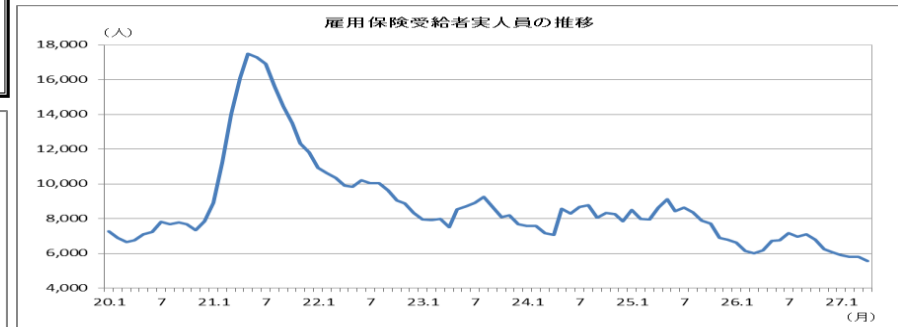
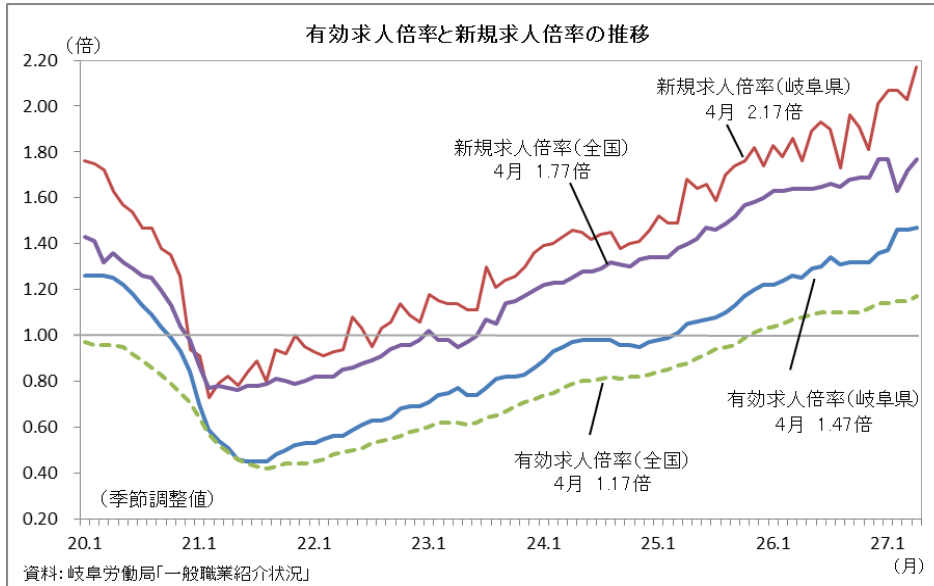
- ◆負債総額10億円を超える倒産が無く、1億円以上は5件であり全体の45.5%を占めているが、1億円以上の小口先が54.5%と半数を占めており、負債総額を抑制する要因となった。
- ◆業歴30年以上の老舗企業2件、10年以上で6件と全倒産件数の54.5%を占めた。
- ◆10人未満の企業が11件と全倒産件数の90.9%を占めた。
- ◆為替動向や消費の伸び悩みにより価格転嫁が出来ずコスト負担を強いられ、経営改善の進んでいない中小零細企業の収益確保は厳しくなっている。夏場に向けて企業倒産が増勢に転じる可能性は否めない。

雇用

○4月の有効求人倍率(季節調整値)は1.47倍と前月より0.01ポイント上昇した。

○4月の新規求人倍率(季節調整値)は2.17倍と前月より0.14ポイント上昇した。

○4月の雇用保険受給者人員は前年同月比9.9%減と22ヶ月連続で前年を下回った。



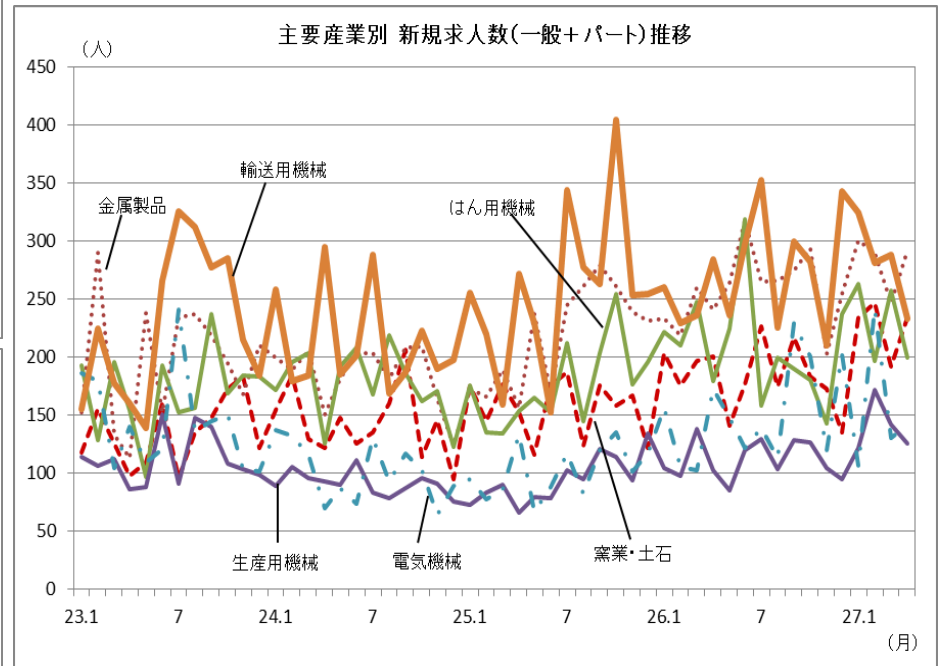
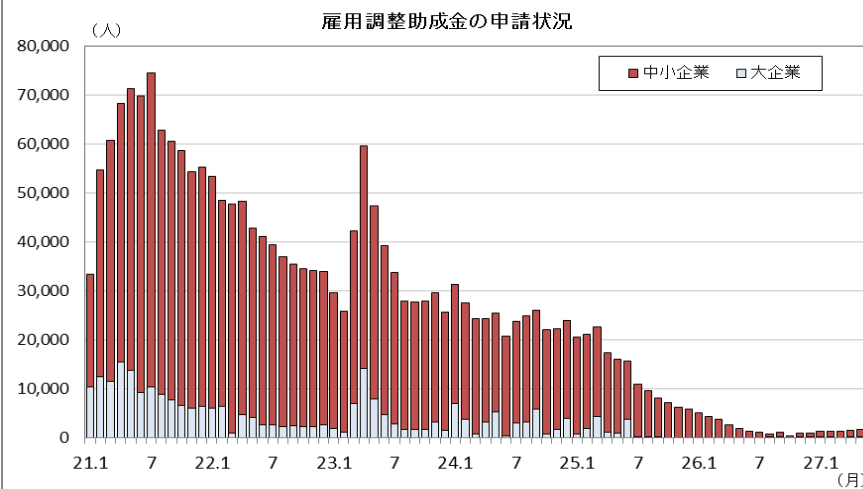
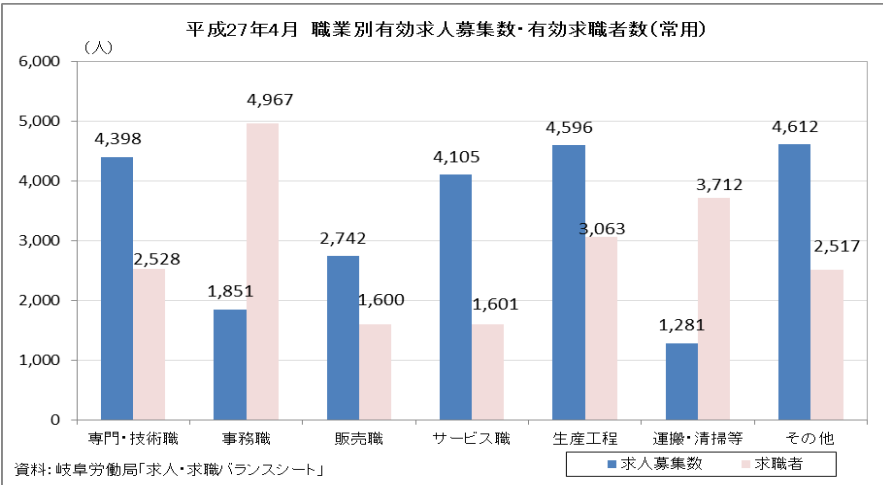
現場の動き

- ◆人材不足については、派遣社員等に対応。ダイキャスト製造を女性にもしてもらおうなど、女性の活用も進めている。
- ◆優秀な人材は大手に持っていかれ、中小企業では人手不足が顕著に表れている。(以上、輸送用機械)
- ◆バイトスタッフが入替わる時期だが、求人応募者が少ない状況が続いている。(家電、運輸、アクティブG)
- ◆人手不足の状況が続いており、パソコン等からの面談予約により募集体制を強化した。(コンビニ)
- ◆賃金を上げることで人手を確保しようとする動きがあり、結果として中小企業が人を雇いにくい状況に陥っている。
- ◆専門職が引き続き人手不足感が強い。(以上、金融)

雇 用(職業別)

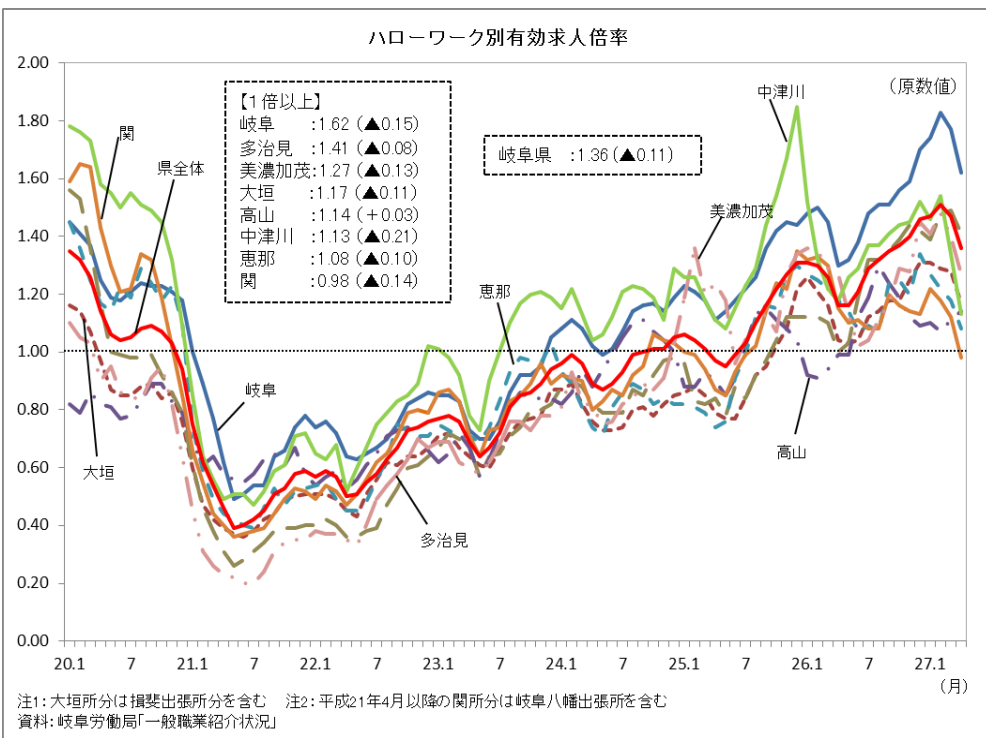
- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では、求人募集数と求職者数のギャップが大きい状況が続いている。
- 雇用調整助成金は東日本大震災直後に急増したが、現在は減少傾向にある。

- 4月の主要産業における新規求人数は、生産用機械が前年同月比22.5%、金属製品が同21.2%、窯業・土石が同17.0%、はん用機械が同11.2%増加したが、輸送用機械が同18.0%、電気機械が同17.9%減少した。



雇用(地域別)

現場の動き(先月比)



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<窓口の様子>

- ◆大垣、多治見、関は混雑。高山、恵那は同じくらい。岐阜、美濃加茂、中津川は空いている。

<ハローワーク美濃加茂>

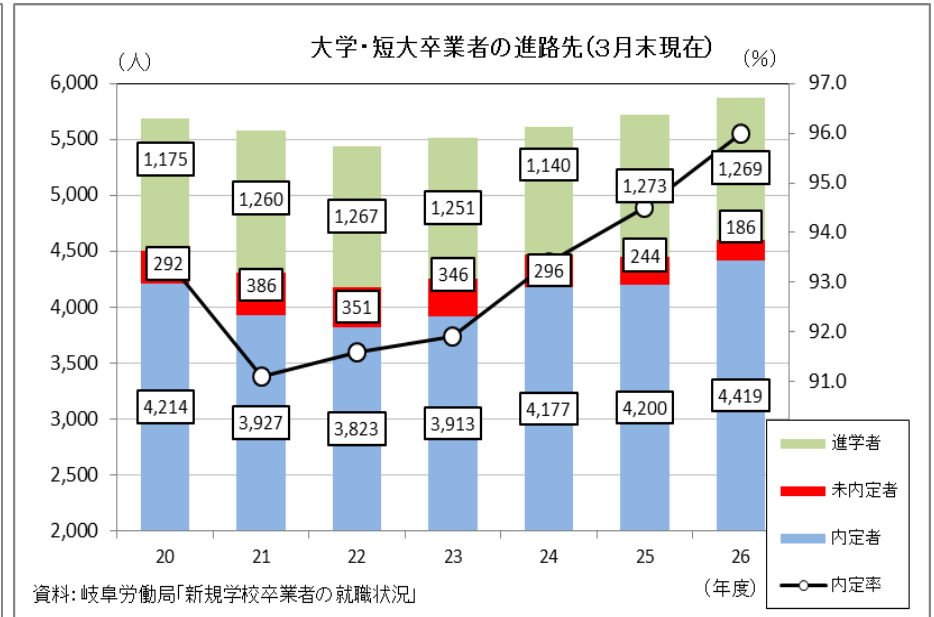
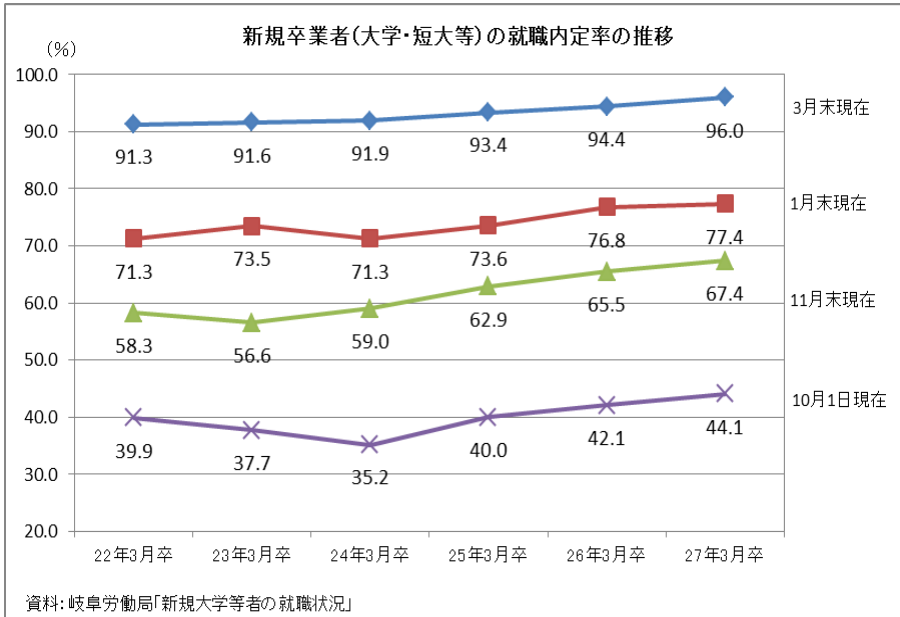
- ◆求人者数、求職者数はともに横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○3月末時点の大学・短大卒業者(平成27年3月卒業予定)の就職内定率は、前年比1.6ポイント増加し、最近6年間に於いて最も高い水準となった。



現場の動き(平成27年3月卒の就活状況等)

【岐阜県内の主な大学】

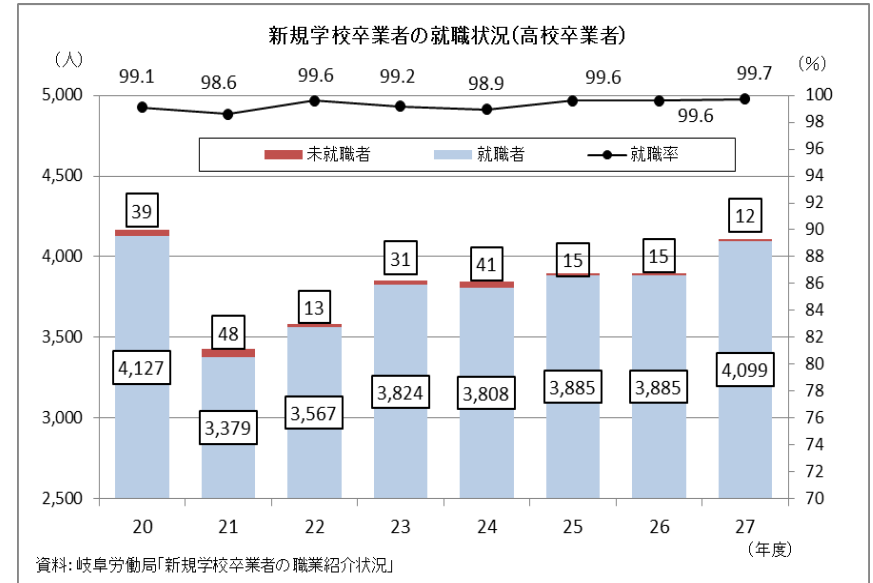
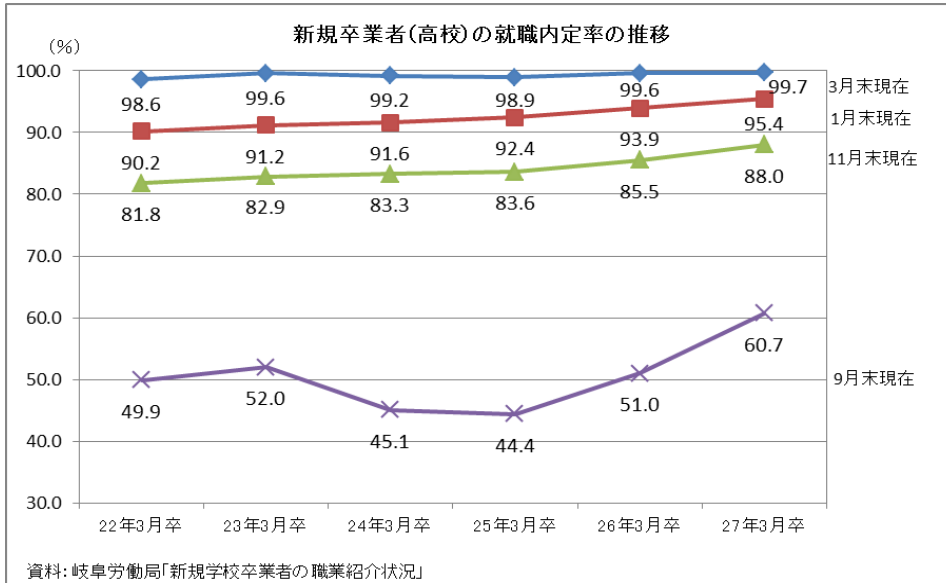
- ◆内定率について、学部で多少の差異はあるが5月集計の時点で96%の状況。
- ◆平成28年3月卒業の学生について、既に数名の学生から内定をもらったという報告が入っている。
- ◆早期キャリア形成の手段として就活ガイダンスがスタート。インターンシップ等の利用促進などを進めている。

【愛知県内の主な大学】

- ◆内定率は、最終集計で98.1%。今後、就活継続の学生は、キャリアセンターでの相談など、引き続き支援する。
- ◆内定率は、97.6%。卒業後も就職活動を継続する学生には、卒業生専用webサイトにより支援。
- ◆留学から帰国した学生対象に、大手のグローバル企業10社参加の合同説明会を開催予定。

雇 用(高校新卒者の就職)

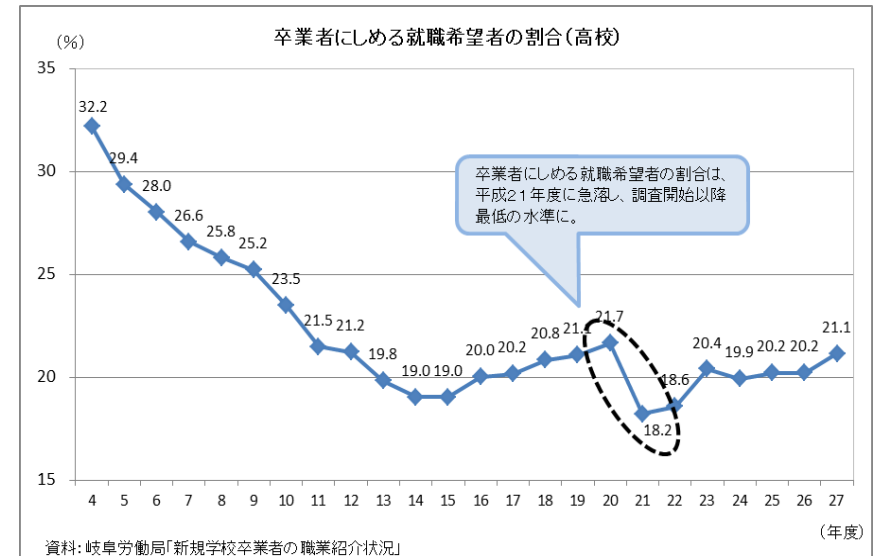
○3月末時点の高校卒業者(平成27年3月卒業予定)の就職内定率は、前年比0.1ポイント増加し、最近6年間に於いて最も高い水準となった。



現場の動き

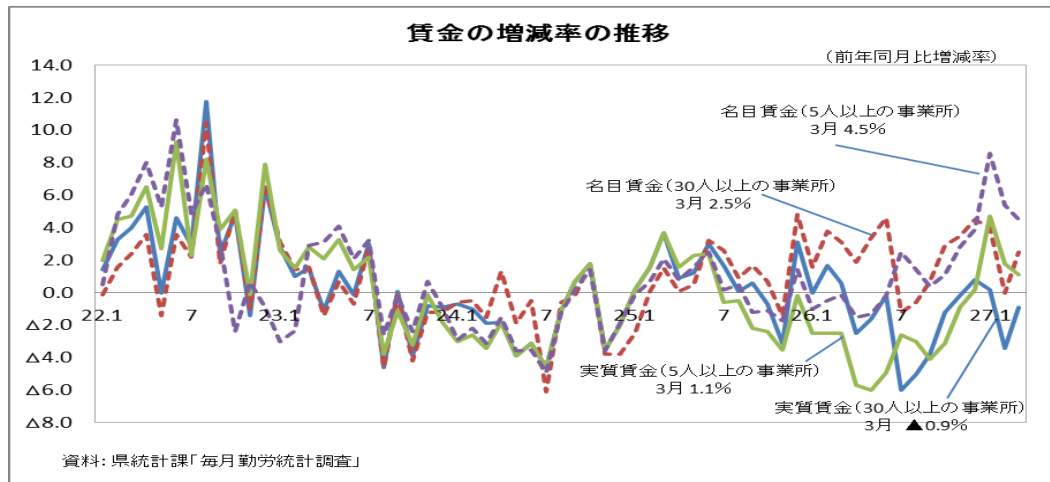
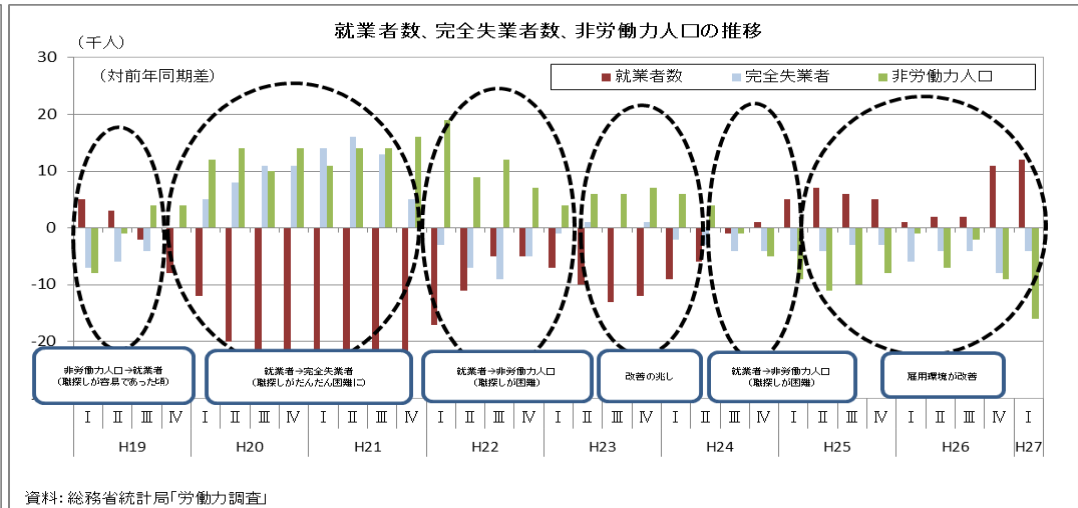
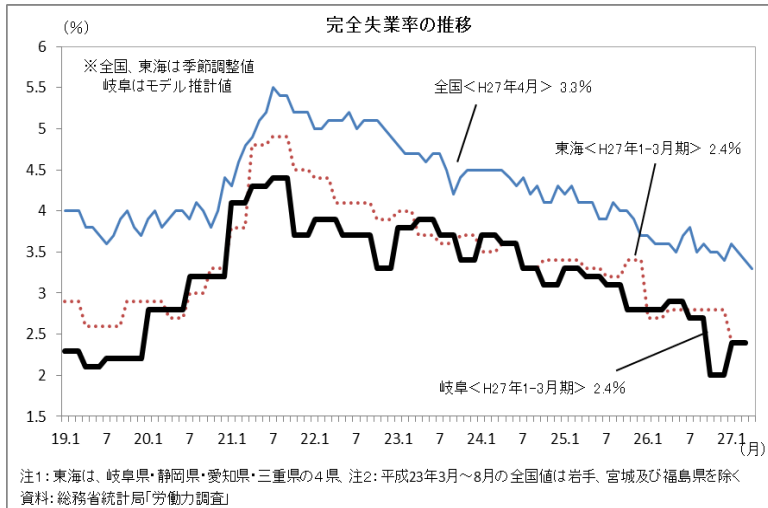
- <ハローワーク岐阜>
- <ハローワーク大垣>
- <ハローワーク多治見>
- <ハローワーク高山>
- <ハローワーク恵那>
- <ハローワーク関>
- <ハローワーク美濃加茂>
- <ハローワーク中津川>

内定は増加。
 内定は横ばい。
 内定は横ばい。
 内定は横ばい。
 内定は増加。
 内定は横ばい。
 内定は横ばい。
 内定は増加。



雇 用(完全失業率)

- 平成27年1-3月期の完全失業率は2.4%と前期比0.4ポイント低下した。
- 平成21年以降、職探しが困難な状況のなか、平成23年に改善の兆しを見せた。平成24年に再び厳しい状況となったが、平成25年以降に雇用環境は改善している。
- 3月の実質賃金は、従業員5人以上の事業所は前年同月比1.1%増、従業員30人以上の事業所は、同比0.9%減となった。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いているが、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持しており、大型の設備投資の動きも見られる。
- 直近の円安の動きについては、原材料価格の上昇が続き、製造コストを一層押し上げている。しかし、販売価格への転嫁が進んでいない企業が多く、利益を大きく圧迫している。
- 地場産業は、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いているものの、生産に落ち着きを見せ始めた企業も一部で見られる。
- 個人消費は、一部の企業で、売上が前年同月比を上回るなど、駆け込み消費の反動減によるマイナスが一巡した兆しが見られるものの、依然、景気回復により売上が上昇したと実感している企業は少ない。
- 観光では、宿泊客数は、8割以上の施設で前年を上回っている。インバウンドは、特に中国（香港含む）、韓国、欧州からの観光客の増加により、前年比で好調を維持している。観光入込客は、天候不順の影響が大きく、前年比で若干減少した。
- 雇用面では、大学・短大・高校卒業者の就職内定率が最近6年間で最も高い水準となるなど、新卒採用を拡大する動きが見られるものの、製造業の一部や建設業、非製造業では、人手不足に陥っている企業が見受けられる。
- 企業の資金繰りは、横ばい状況が続いており、新規借入需要は低調だが下げ止まりの兆しが見られる。